

4 考察 寛文12年志和郡内の八戸藩領之図について（藩境塚と古絵図）

はじめに

鎌倉街道跡発掘調査において、もりおか歴史文化館、岩手県立図書館所蔵品をはじめ6点の寛文12年（1672年）志和郡内の盛岡藩領・八戸藩領の藩境と藩境塚が描かれた古絵図の比較検討を実施した。以下本稿では、古絵図に基づいて藩境整備と藩境塚築造に至るまでの経緯・概要、本調査地点の現況と古絵図の関連性について考察する。

（1）藩境整備に至るまでの経緯

寛文4年（1664年）9月、第28代南部藩藩主・南部重直が家督を定めずに死去したことにより、領内では重直の遺領10万石をめぐり後継者争いが起こったが、幕府の裁定により南部10万石の内、重信に8万石、直房に2万石を下賜する旨の申し渡しを受けることとなる。

かくして南部藩は盛岡藩と八戸藩に分藩され、翌寛文5年2月には旧南部領の内、三戸郡41村、九戸郡38村、志和郡の上平沢、稲藤、土館、片寄の4村が八戸藩に編入された。また、この分封により、志和郡内に飛地が存在することとなったが、その事情を記した記録は知られていない。

以上のような経緯をもって、寛文12年（1672年）より両藩の藩境検分と藩境塚築造、またそれに伴う藩境絵図の作成という藩境整備事業が進められることになった。

（2）藩境塚築造と藩境古絵図の作成過程

寛文5年の分藩以降、両藩間で藩境交渉がなされたのち、寛文12年（1672年）より藩境塚築造作業と藩境を記した絵図の作成作業が開始されることになる。これらの事業の過程については以下、近世北奥の藩境研究に精通しておられる本田伸氏の『近世の北奥と藩領域―八戸藩・盛岡藩境絵図と藩境塚―』で詳細な論考がされており、参考にさせていただくこととする。

『雑書』6月18日条の盛岡藩から八戸藩へ出された6月17日付の書状についての記事である。ここには藩境塚における作業も終わり藩境を記した絵図も描き上がったことが記されている。また、絵図への盛岡藩方の奥書や判形も済んだので、八戸藩方も書き入れ作業等を行った上で盛岡に送って欲しいと言う旨が記載されており、6月17日以前には絵図が描き上がっていたこと、絵図は盛岡藩が作成したことが窺える。およそ1カ月後の『日記』7月18日条には八戸藩方の家老と担当者による加判作業が済んだことが記載されており、寛文12年における志和郡内の藩境整備作業はここで一応の終わりを見せることとなる。

尚、盛岡藩が絵図を作成したであろうという点に関しては、本田氏も八戸藩は立藩して日が浅いことに加え、盛岡藩は陸奥国の絵図元として公的絵図である正保国絵図を作成した経験があるので、今回の藩境絵図も盛岡藩で作成し、八戸藩に引き渡す方法を採用したであろうとしている。

(3) 古絵図の概要

志和郡内の藩境と藩境塚が描かれている寛文12年付の古絵図は現在6点確認されている。まとめたものが以下の表である。

	史料名	日付	所蔵
1 図 (挿図第28図)	「志和郡八戸領図」	寛文12年6月17日付	もりおか歴史文化館
2 図	「志和郡八戸領図」	寛文12年6月17日付	もりおか歴史文化館
3 図	「志和領図」	寛文12年6月17日付	もりおか歴史文化館
4 図 (挿図第30図)	「志和郡八戸藩領境之図」	寛文12年6月17日付	岩手県立図書館
5 図	「志和領内図」	寛文12年6月17日付	八戸市立図書館
6 図	「八戸藩領志和境図」	寛文12年6月17日付	青森県立郷土館

6つの古絵図の内、筆者が実見したものは1～5図までである。その内、特筆すべき古絵図の1図と4図について詳しく考察する。

まず1図は6点の古絵図の中で最も虫食いやシミなど損傷が著しく目立つ。表書きを見ると差出人は八戸藩家老3名、宛名人には盛岡藩家老の4名の名前が記載されている。さらに差出人の部分には3名の花押と印判が確認できた。このことから見て1図は八戸藩から盛岡藩に提出した藩境絵図の正本ではないかと推測される。

4図は他の古地図と比べて特に新しく、紙質も色味もかなりきれいな状態で残っていた。書体は御家流と全く異なるほか、用字も1図と2図が混ざり合った独特の表記で、且つ明らかに誤字と思われる個所も見つかった。さらに特徴的なのは4図には6つの古絵図中、唯一藩境塚1つ1つに番号が記載されていたということである。この塚の番号であるが、『大膳太夫様御領志和郡同郡武太夫様御領御境御立被候ニ付塚塚為築申候帳』（紫波町 個人所有）という、同じく寛文12年6月17日付の古文書には、塚番号やどちらの藩の塚であるか、また、塚と塚の距離などが記載されていた。この古文書が書かれた本当の年代は判断しかねるが、料紙の傷み具合や書体が1図や2図と類似していることから見て、同時期かそれに近い時期に書かれたものではないかと思われる。おそらくこの古文書を参考にしつつ、かなり時代を下ってから描かれたものと推測される。

以上2点の古絵図を比較したが、その中でも正本と思われる1図について以下概要を見ていこうと思う。絵図には四方に東西南北が記載され、河川や主な道路が描かれ地形表現がされており、その上に藩境線が引かれている。基本的には山際や河川沿い、旧道などそれまでにあるものを利用しながら藩境を画定したことが見て取れる。藩境線上には藩境塚を表す黒丸が、大小交互に描かれており、塚と塚の間には塚同士の距離が「間数六十間」のようにすべての箇所に記載されている。藩境線と藩境塚で囲まれた範囲の真ん中には「武太夫様御領分者御境塚之内」と大きく記載されており、志和郡全体を描き両藩の領地を書き込んだものではなく、『志和郡八戸領図』という名称通り、武太夫様（八戸藩主直政）の領域を書き記した絵図であることがよくわかる。表書きは以下のようである。

【表書A】

大膳太夫様御領分者御境塚之外、
大膳太夫様御領志和郡、同郡之内、武太夫様御領御境相極塚
為築申候、東者滝名川渡之上ヨリ犬淵堤迄古道切、南者犬淵
堤之上分二つ森野統山ハ嶺統、山王海葛丸滴石山之三辻迄
稗貫境、西者三つ辻ヨリ三つ石迄嶺統、岩手郡之内牽石山境
稻荷山之上迄、北者稻荷之前分野沢堰口新畔、滝名川端ヨリ
大道渡之上迄、御境塚、大ハ盛岡御領分、小ハ八戸御領分廻
候、武太夫様御領土館村前山内仁大膳太夫様御領新山権現之
御隠山有、雙方出合吟味仕取遣申御絵図、

武太夫様御内

小田嶋庄兵衛	(花押)	(印)
戸来惣右衛門	(花押)	(印)
神太郎衛門	(花押)	(印)
大膳太夫様御内		
江刺家兵左衛門	(花押)	(印)
氏家半助	(花押)	(印)
四戸金左衛門	(花押)	(印)

【表書B】

大膳太夫様武太夫様今度御相談被成、御領境目被相立候、依之
武太夫様御家来神太郎左衛門戸来惣右衛門小田嶋庄兵衛、
大膳太夫様御家来四戸金左衛門氏家半助江刺家兵左衛門出合、
御境目相立、絵図取遣、無出入相濟候、為後代如件、

寛文十二年六月十七日

楢山善左衛門	(花押)	(印)
秋田忠兵衛	(花押)	(印)
中里弥次右衛門	(花押)	(印)
八戸弥六郎殿		
桜庭兵助殿		
奥瀬治太夫殿		
楢山七左衛門殿		

【表書A】の内容は、東西南北における藩境の範囲をそれぞれ目印となるものを挙げながら説明している。さらに大小の塚が交互に築造されたおり、大きい塚は盛岡藩之塚、小さい塚は八戸藩之塚で新山権現の御山は大膳大夫様（盛岡藩主重信）領地であると注意書きが為されている。

【表書B】の内容は、現地で実際に検分や藩境塚築造作業を進めた両藩の担当者の名前、差出人・宛名人の名前、日付が記載されている。尚、藩境塚の番号についてであるが、先述の通り古文書、後世に描かれた4図には藩境の南東部分より盛岡藩の塚から壱番、隣の八戸藩の塚が貳番と通し番号で藩境が時計まわりに1周しており、最後は貳百貳番まで記載されていた。

（4）発掘調査地と寛文12年付け古絵図との照合

寛文12年付け古絵図と今回発掘調査を行った区域との照合を試みる。前述1図【表書A】の一文に「東者滝名川渡之上ヨリ犬渕堤迄古道切」と書かれ、訳すと「東は滝名川から犬渕堤古道を境界線とする」となる。この地点を現在の地図で見比べると、国道4号に架かる滝名川橋付近から南西に直線的に延びる古道（町指定史跡 鎌倉街道跡）を通り、JR東北本線を斜めに横断し花巻市境まで続く。また、JR東北本線西側に藩境塚を4基確認しているが、古絵図4図にも盛岡藩壱番塚・貳百貳壱番塚、八戸藩貳番塚・貳百壱番塚の位置及び、塚と塚の間尺は六十間（約180m）と記載されている。現状の調査状況を見ても、位置・距離ともほぼ一致する事がわかった。

おわりに

寛文12年に作成された絵図の正本と下書きと思われる古絵図が現存していることを先述したが、さらにこれらの他にも後世に渡り、繰り返し写し描きされたものが複数残されているという点は、この寛文12年の藩境絵図が価値ある貴重な史料であることが明らかである。また、藩境に関わる問題が発生した時などにも活用できる実用的な資料として、後世まで大事に継承されてきたということを物語っているようである。

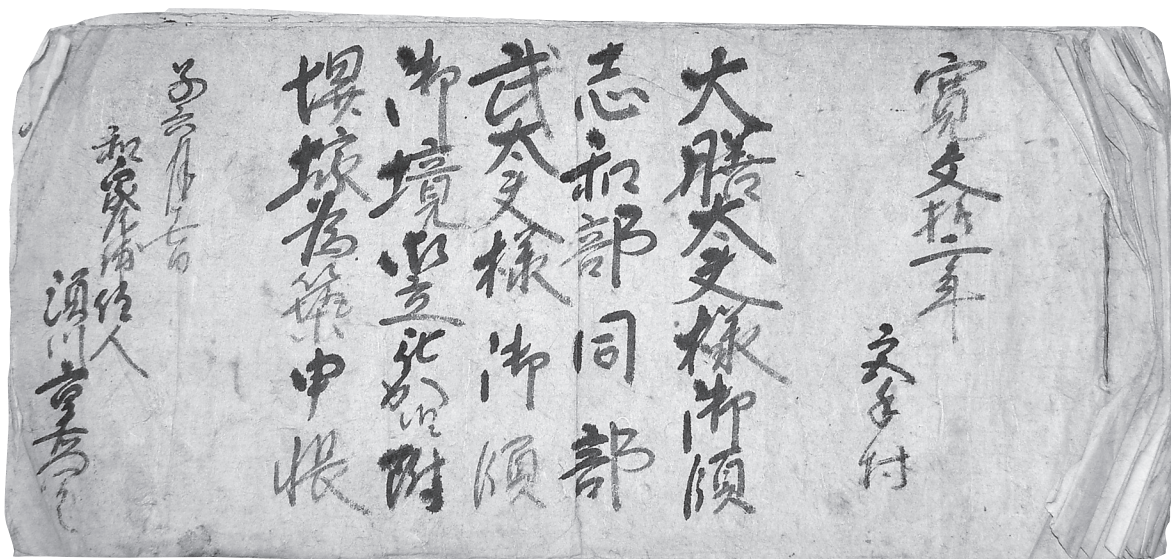
また、これらの古絵図とは別に、盛岡藩・八戸藩の境を意識したと考えられる、「日詰通図」（もりおか歴史文化館所蔵）「紫波郡犬渕村弘化三年絵図」（紫波町教育委員会所蔵）の存在も認めている。

[参考資料・史料]

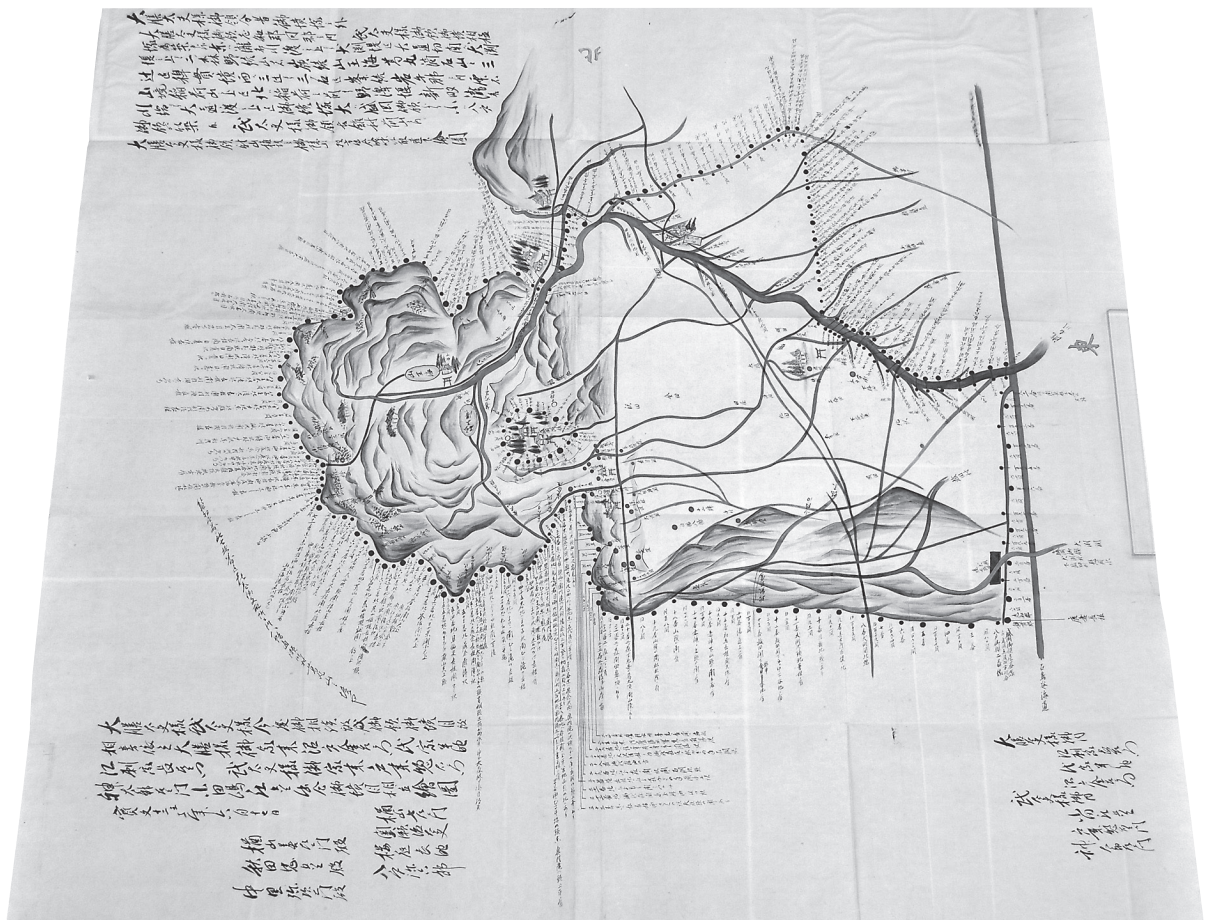
- ・ 本田伸 （2004）「近世の北奥と藩領域―八戸藩・盛岡藩境絵図と藩境塚―」（『地方史研究協議会第54回大会成果論集歴史と風土―南部の地域形成―』所収）雄山閣
- ・ 『日詰通図』（もりおか歴史文化館所蔵）
- ・ 『大膳大夫様御領志和郡同郡武太夫様御領御境御立被候ニ付境塚為築申候帳』（泉館重雄氏所蔵）
- ・ 岩手県教育委員会・盛岡市中央公民館『盛岡藩雑書』
- ・ 八戸市教育委員会『八戸藩日記』（『八戸市史』所収）
- ・ 『志和郡八戸領図』（もりおか歴史文化館所蔵）1図
- ・ 『志和郡八戸領図』（もりおか歴史文化館所蔵）2図
- ・ 『志和領図』（もりおか歴史文化館所蔵）3図
- ・ 『志和郡八戸藩領境之図』（岩手県立図書館所蔵）4図
- ・ 『志和領内図』（八戸市立図書館所蔵）5図
- ・ 『八戸藩領志和境図』（青森県立郷土館所蔵）6図
- ・ 『志和七箇村絵図』（八戸市立図書館所蔵）
- ・ 『志和郡犬渕村弘化三年絵図』（紫波町教育委員会所蔵）
- ・ 『盛岡藩雑書』



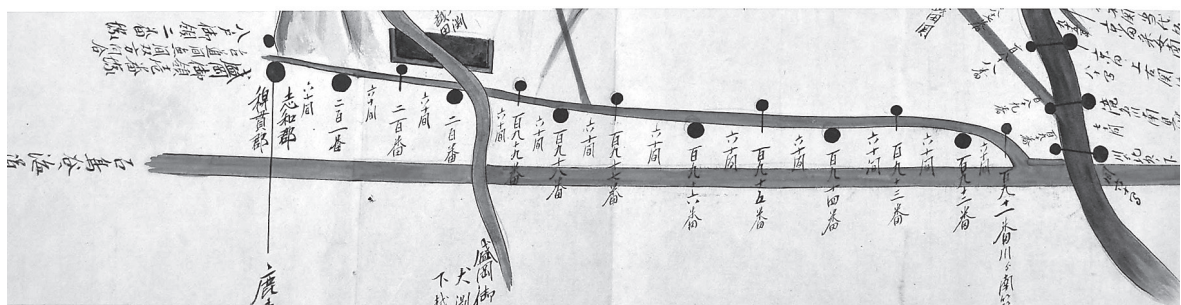
第28図「志和郡八戸領図」（正本と推測される）



第29図「大膳太夫様御領志和郡同郡武太夫様御領御境御立被候付境塚為築申候帳」



第30図「志和郡八戸藩領境之図」



第31図「志和郡八戸藩領境之図」街道付近の拡大図